

学校感染症と出席停止について

学校感染症に罹患した場合、学校保健安全法第19条の規定により、本人の健康回復と周囲への感染拡大防止のため、出席停止となります。

医療機関で学校感染症と診断された場合は、必ず学校に連絡してください。

本校では下記の感染症にかかった場合、「学校感染症報告書」を提出いただくようになっています。必要時にお渡ししますので、登校再開後すみやかに提出してください。本校のホームページからもダウンロードできます。

	学校感染症の種類	出席停止の期間
第 一 種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群及び特定鳥インフルエンザ（新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症）	・ 治癒するまで
第 二 種	・ インフルエンザ（特定鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）	・ 発症後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで
	・ 百日咳	・ 特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	・ 麻疹	・ 解熱後3日を経過するまで
	・ 流行性耳下腺炎	・ 耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	・ 風しん	・ 発疹が消失するまで
	・ 水痘	・ すべての発疹が痂皮化する（かさぶたになる）まで
	・ 咽頭結膜熱	・ 主要症状が消退した後2日を経過するまで
	・ 新型コロナウイルス感染症	・ 発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで
	・ 結核及び髄膜炎菌性髄膜炎	・ 病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
第 三 種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで

*第2種の感染症については、病状により医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りではありません。